



14.4%

新成人のマイカー所有率

2021年『新成人のカーライフ意識調査』
ソニー損害保険株式会社

大人にならなければできないことはいろいろあるが、運転免許の取得もその一つ。普通自動車運転免許の試験は、満18歳以上でなければ受けられない。とは言え、最近の若者は「車離れ」をしているとも聞く。実際のところはどうかののだろうか。ソニー損害保険株式会社が新成人1,000名（男女各500名）を対象に行った2021年『新成人のカーライフ意識調査』から、イマドキの若者の意識を探ってみよう。

まず、普通自動車運転免許の保有率については51.3%と半数をわずかに上回っている。取得予定の30.9%と合わせると8割超で、取得意欲は低くもないようだ。では、マイカー所有率はどうか。全回答者のうち14.4%が「自分の車を持っている」という結果は、20歳であれば当然に思える。「購入予定または意向あり」は53.5%となっており、自分の車を持っている14.4%と合わせると7割近い。

他方、「購入するつもりはない」32.1%にその理由を尋ねたところ、「購入費用を負担に感じるから」や「燃料代や修理費など、維持費がかかるから」などコスト面での負担を要因とする回答が上位を占めた。ただし、「レンタカーやシェアリングがあるから」や「自動車に乗ることは環境に良くないと思うから」など、昨今の社会状況が反映された回答もあり、車離れの一部が垣間見える。

マイカーは「自分で行きたいところへ行ける、を叶えるツールであるが、その自由を手にするためには経済力も必要ようだ。

43.5%

80歳以上男性の 運転免許保有率

令和2年版『交通安全白書』
内閣府

高齢ドライバーによる悲惨な交通事故のニュースを見ると、運転免許に上限年齢を定めてほしいと思ったりするが、話はそう簡単ではない。公共交通が脆弱な地域で暮らす方はマイカーがなければ生活が成り立たないし、足腰が弱っている高齢者にとって移動手段であるマイカーは手放せない。

令和2年版『交通安全白書』（内閣府）によると、令和元年末の運転免許保有者数（第一種・第二種）は8,216万人で、16歳以上の人口1億984万人のうち74.8%を占めている。年代別では35歳～59歳が最も高く、男性で約97%、女性で約90%の人が運転免許を持っている。60歳以降、徐々に減少していくものの、高齢化に伴い70歳以上の運転免許保有者は年々増加傾向にあり、令和元年末でその数は1,195万人、70歳以上人口のうち44%が保有している計算だ。

さらに年齢を区切れば、70歳～74歳は70.5%、75歳～79歳は48.9%、80歳以上は20.3%と、75歳を過ぎると保有率は下がるが、そこには男女の違いがある。同じ80歳以上でも、女性の保有率は7.3%であるのに対し、男性は43.5%、つまり80歳以上男性の半数近くが運転免許を持っている。

75歳以上のドライバーには免許更新時に認知機能検査が行われているとは言え、ブレーキとアクセルによる踏み違い事故は75歳未満が0.5%であるのに対し、75歳以上は7%と高い。そう聞けば、やはり不安はぬぐえない。人生が長期化する中で高齢になっても移動の自由が確保できるよう、交通分野でのさらなる技術革新に期待したい。

（執筆／ライター 更田 沙良）